

芸術の秋 第49回市美術展覧会 講評と総評

☎文化・スポーツ課 ☎(582)1169 ☎(581)2733

9月29日～10月7日に市民ホールで開催された市美術展覧会。今年は市内外から282の力作が出品されました。市展賞を受賞した作品や審査員の講評と総評を紹介します。

第二部 彫塑

「見上げてごらん」
鈴木 誠司



作品・作者名と審査員の講評
一木の樽での木彫刻。中品ながら力作。エジプトの猫、神社の狛犬を思わせる求心的表現で、昨年に比べて造形性が数段向上されています。木肌の仕上げも見事で刀の味わいが素晴らしいです。

第二部 洋画

「不動明王」
善野 果林



作品・作者名と審査員の講評
さまざまな画材の塗り重ねが美しいマチエールを生んでいます。明王の線描を少し抑えることもっと良くなると思います。

第一部 日本画

「紅色の夢」
諸隈 和子



作品・作者名と審査員の講評
中心の花の表現も巧みで、画面全体の色感もよく好感の持てる作品です。

第六部 写真

「居場所」
久島 正博



作品・作者名と審査員の講評
作者の力量が感じ取れる作品です。現場での構成や判断力も良く、確かな視点で写された作品です。プリント技術的確で巧さを感じます。

第五部 書

「溪鳥」
藤田 文子



作品・作者名と審査員の講評
隷書を基調に、既成の形に囚われず、その場に合った表現で堂々と書き上げています。作品の作り方を熟知し、平素練磨の成果を存分に発揮した秀作です。

第四部 工芸

「野あざみ」
鈴木 恭子



作品・作者名と審査員の講評
あざみの花をアップリケで、いろいろな部分を工夫して根気のある作品を造り上げています。細部に至るまで丁寧な秀作です。

審査員総評

【日本画】 審査員 高田 淑子
全体に意欲的な作品が多く見られレベルが上がっていると思います。今後、さらに良い作品を描くためには物をもっとよく見るということをお願いしたいと思います。

【洋画】 審査員 市川 嘉一
経験豊かな方々の出品が多いとの印象でした。受賞作の中にもありましたが、絵の具の扱いに気を遣われるとよくなると思います。画面にはいろいろな意味で魅力が必要です。魅力を最大限に伝えるために必要な事、必要な事を考えて制作してみてください。

【彫塑】 審査員 藤木 康成
彫刻部門の出品が増えない中、ベテランの方々の継続的な制作態度に感心しています。また、批評で指摘した事柄を見事に修正されている事に驚きました。今後も独自性のある制作を続けて市民の方々にアピールし、益々意欲的に制作されますようお願いいたします。

【工芸】 審査員 神崎 継春
平面、立体がバランスよく出品されていて見応えがあります。それぞれ個性があり力作ぞろいですが、視点が少し違う感覚が見られるので、少し考えると良いでしょう。

【書】 審査員 大田 左郷
書と言えは漢詩と言つ書展が多い中で、本展は書体、表現形式ともに多種多様で楽しい書展となりました。専門家を養成する場ではなく、市民の平素の成果を発表する場と考え、上手に書く競争ではなく、表現目標を決めたら気持ちよく書きましょう。難しい漢詩の手本をまねないで、自分に理解できることを書きましょう。その点で望ましいのは俳句や詩文でしょう。

【写真】 審査員 小林 賢司
選び抜いた作品を一堂に並べると、守山市展の写眞の熱量に充実感を覚えました。新しい挑戦的な作品や、ベテランらしき重みのある作品がバランスよく並んでいて、将来の安定感も見られました。